## 国連 NGO 横浜国際人権センター山梨ブランチだより(2020年6月号)

# 今だからこそ、あらためて考える子どもの人権

新型コロナウィルス感染症の影響がまだまだ続いています。 緊急事態宣言は解除されたものの、以前の生活に戻ることな く多くの人が大変な思いをしています。私たちは、新しい生 活様式を取り入れ、今までと違ったスタンダードを作ってい く必要があるのかもしれません。

その中で最も気になるのが子どもたちの生活です。世の中が変われど、私たち大人と社会は子どもたちを守り導いていかなければなりません。私どもは、今までいじめ問題を中心に子どもたちの人権を重要視して訴え啓発・啓蒙を続けてきました。そこには、未来を背負う子どもたちが笑顔で安心して暮らせるためにという想いと、受動的立場である子どもたちを守らなければいけないという責任感があります。



協賛:山梨県、甲府市、甲斐市

子どもの生活や心の健康を守るために、今すべきこととは何なのでしょうか?今だからこそ、あらためて子どもたちの人権について、考えなければいけないと思います。この6月から、ほとんどの学校で授業が再開されました。しかし、学校では「新しい生活様式」を守るため、子ども同士が1~2m離れて行動するよう指示されたり、給食中の会話が制限される等、窮屈な環境が続いています。

新型コロナウィルス感染症の広がりで生じた大きな問題点の一つは、"人と接することが危ない"という意識を多くの人々に植え付けてしまったことではないでしょうか。そうした中で、子どもたちの健やかな成長を支援していくためには、これまで以上に子どもの人権(幸せに生きる権利)を大切にする関わり方が必要ではないかと思います。

そこで、子どもの心のケアに関する専門家の提案を参考に、特に大切と思うことを考えてみました。子どもたちの人権を考えたとき、目に見えない心のケアがいかにできるか?が問われます。人々の生活様式が変化する今だからこそ、子どもの心の声に耳を傾けることが必要です。

## 守ろう子どもの人権、大切にしよう心のケア

#### 1. 子どもの話をいつも以上に聞いてあげましょう

子どもの不安な心に寄り添うために、話を丁寧に聞くことが大切です。お子さんの話を聞く際にうなずいたり、相槌を打ったり、同じ目線で目を見て話しをすることが大事です。



呪いの言葉の例)「それくらい我慢しなさい」「みんなに嫌われるわよ」「そんなこともできないの」「お姉ちゃんはもっとできたのに」等々(→子どもの心を傷つける言葉です)

(感謝の言葉の例) 「ありがとう」「うれしい」「おかげで助かったよ」等々(感謝の気持ちを込めて伝える。※「えらい」「よくできたね」等の上から目線の言葉よりも望ましい)

#### 3. できないことを責めるのではなく、できたことを評価しましょう

子どもたちに必要なことは、"できた"という感覚を持つことです。家庭で勉強を見るときには、声かけも大事です。「これができてないよね」「これ間違っているよ」「これまだやっていないじゃない」などの否定的な言葉ではなく、「これできたね」「これあってるよ」「これ、よくわかったね」等と、肯定的な言葉をたくさん言ってあげましょう。

#### 4. 家族の一員として子どもを頼りにしましょう

家事の手伝いや兄弟の世話などをしてくれたら心から感謝することで、自分は「役に立っている」という実感を持つことができます。

#### 5. 大人(親など)が明るく前向きに生きる姿勢を示しましょう

子どもは、親や指導者の言葉よりも、その"生きる姿勢"から学びます。 子どもに「こんな人になってほしい」と思う姿に、自分が少しでも近づけたらと思います。

※人権移動教室の授業を受けた子供たちの感想文が、裏面にてご覧いただけます。



国連 NGO 横浜国際人権センター山梨ブランチ 会長:横山隆史特定非営利活動法人横浜国際人権センター山梨

〒400-0031 山梨県甲府市上町 601-4 甲府市環境センター内 なでしこ工房 1 階事務室 TEL. 055-243-8563 FAX. 055-243-8564 http://yamanashi.yihrc.or.jp/ E-mail. yamanashi@yihrc.or.jp

会員企業:(株)成心設備、西関東開発(株)、(株)ウィルマート、(株)R&C、(株)フジコー、(株)渡辺工業所、甲府市管工事協同組合

## 国連 NGO 横浜国際人権センター山梨ブランチだより(2020年6月号)

権移動教室に参加

した子どもたちの感想文をご紹介

します。

甲府市立甲運小学校(男子)

### 甲運小学校6年(

多中国 二

私は始め人権」という言葉しか知らず、難かしそうだと 思って、あまり知ろうと思いませんでした。でも、久権 というのは、一生の中で一分、一利でも忘れてはいけない 大切な言葉なんたとわかりました。 人権は、自分が長く生きること、辛せになることを守る 人の権利なのだと初めて知りました。でも、自分 勝手73行動をしていれば、それは自分の本当の幸せに ならないということも知ることができました。 人にやさしくする。人を助ける。これは努力しなければ、 きないことだと知りました。 国境なき医師団の活動をみたとき、すごいなと思いま した。人を助けることに命をかけるそれはとても難しいと

思ったからです。すでいと思ったその後に私も人を助けたいと思いました。医師団の人みたいに大きなことはできないけれど、近くにいる物くの人を助けたいと思います。そして人権、というものを一生考えていたいと思います。

甲府市立甲運小学校(女子)

### 甲運小学校6年(

HAE :

今日は来ていただきありがとうございました。 世界には、何十億の人がいて、顔しろかうし感じてること 考えることはまたくちがうけど、だれてし、死にたくなり しあわせになりたいの2つのことはみんな 同じことも考えているなんですごいと思いました。 戦争がおきたくさんの人ながなくたっていき人口し かしずつ減っていっている時もあたけど、いまでは たくさんの人が地球の上にいるなんて考えられません ルワングなどにずんでいる人ははじからころされてしまった りたくさんのひ書にあっていて、かわいそうだなと思い エレド、てもけがなした人をてあているがてくれる人 がいると私も少し安心すると思います。 優しさをわすれずに、旧でも長くいきていきたいです。 私もみんなのために自分のことを あとまりしたしてお父さん、お母さんからもらんた

命大切にしてこれからの生活をしていきたいです